

# 建誦新聞

2021年(令和3年)  
4月6日<火曜日>

5面

クローズ  
アップ

少しゆとりのある人生に  
なるのではないか。自社  
開発の物件は耐震等級2  
を基準としているが、サ  
ステナブルな社会を実現  
するためにも、より耐久  
性に優れた建物を生み出

域貢献の一環として取り組んでいた。例えば豊中市で開発したマンションでは、周辺の歩道をアーチファルトから透水性の高い施工へと変更し、浸水対策を行った。また、建

ここに水が流れ込むようにしておく方法など、知恵を絞ればさまざまな防災対策を講じることがができる。一企業でできることには限界もあるので、自治体にも積極的な協力を

時を見越した準備を今から始めることが重要。短期的な目で見るのではなく、長期的な視点で見ることで、待機面や教育など課題を取り組むべきだと考えている」

自然ファースト、防災など  
特徴あるマンションづくり

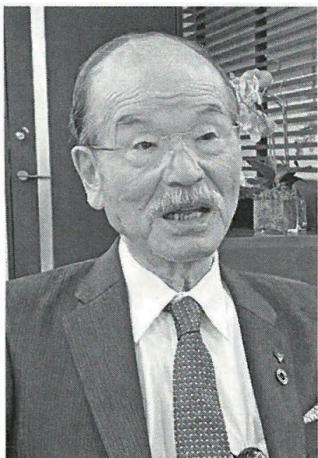
あるべき姿だ。住む人にとって本当に重要なことは何か、普段から自然に触れ合つてができる環境づくりも、その一部と考えている。また自然災害が多い日本では難しい問題だが、諸外国と比べ建物の耐用年数が短い。そこで建物を払い終わつたらしまいの人生ではなく、もう10年でも長く使う建物をつくる、という

す必要がある  
—開発マンションは  
波避難ビル指定を積極  
に受けるなど、防災へ  
考えも強い。  
「防災対策について  
緑化も含めた部分で

物を嵩上げし、最下部を  
普段は駐車場やピロティ等、遊水池にして、可能  
な限り低木や地被類の植  
栽を施し、ドライヤーやニコ  
ニヨークのよう、親水性を持たせ、水害時にはそ

「あくまで自然アートであり、人間がセンド、建物がサードだ。自然の享受は人間力高めることにつながる」など、緑視率の増加に

だわった開発を進めていく  
「一 開発に当たっての問題点などはあるか。  
「日本では建築基準法など、規制が多すぎる部分があるのではないかと考えている。建物に人間が合わせるのではなく、人間に建物を合わせるのが本来



## リバーアイランドの河啓一社長に聞く「分譲マンション開発」